

ニンフェアール第9回公演 - Different Voices -

2013年10月5日(土) 17:30開演(17:00開場)

◆会場：名古屋音楽学校ホール

◆主催：NymphéArt (ニンフェアール)

出演：森川栄子 (ソプラノ)、青山映道 (バスクラリネット)

Eiko Morikawa, soprano

Terumichi Aoyama, bass clarinet

プログラム

Program

1. 板倉ひろみ：「人類の泉」ソプラノの為の (2013) [世界初演]

Hiromi Itakura : *Jinrui no Izumi* (2013) for soprano (WP)

2. アリベルト・ライマン：「2つのヴォカリーズ」コロラトゥーラソプラノの為の (2006) [日本初演]

Aribert Reimann : *2 Vokalsen* (2006) für Koloratursopran (JP)

3. ウェイン・シーゲル：「ジャックダウ」(1995/2000)

バスクラリネットとエレクトロニクスの為の

Wayne Siegel : *Jackdaw* (1995/2000) for bass clarinet with electronics

4. 伊藤美由紀：「新しい歌」ソプラノとエレクトロニクスの為の (2013) [世界初演]

Miyuki Ito : *Cantos Nuevos* (2013) for soprano with electronics (WP)

= 休憩 =

5. ロドリゴ・シーガル：「月の生命」(2005)

エレクトロアコースティックとビデオの為の [日本初演]

Rodrigo Sigal : *Vida Lunar* (2005) for electroacoustic and video (JP)

6. アリベルト・ライマン：「メルズイーネへの追作」(1971/87) 無伴奏ソプラノの為の

Aribert Reimann : *Parerga zu Melusine* (1971/87) für Sopran solo

I. 「あなたが私の全てを奪い去って。。。」 *Wenn du mir alles genommen hast...*

II. 「五千度目の愛の夜にも。。。」 *Am fünftausendsten Abend unsrer Liebe...*

7. 田中範康：「Sparkling in the Space IV - 祈りの時 -」(2013) [世界初演]

ソプラノ、バスクラリネットとエレクトロニクスの為の

Noriyasu Tanaka : *Sparkling in the Space IV* (2013)

for soprano and bass clarinet with electronics (WP)

協力：名古屋音楽学校

後援：名古屋芸術大学音楽学部

協力スタッフ：長江和哉、原田裕貴、吉川敦、磯村輝昭、近藤一輝、常岡千波、松永麻耶、浅野愛

ごあいさつ

GREETING

本日はお忙しい中、ニンフェアール第9回公演にご来場頂き、有り難うございます。2005年の第1回公演から毎年続けられましたのも、ご来場下さる聴衆の皆様の暖かいご支援の賜物であり、心から御礼申し上げます。

今回の演奏会には、ニンフェアールの公演に関わっていただくのが2度目であり現代作品のエキスパートであるソプラノ歌手の森川栄子さんと、バスクラリネットのエキスパートである青山映道さんを迎えます。伊藤美由紀、板倉ひろみ、田中範康の3名の作曲家が、各々の新作のなかで声の可能性を追求致しました。また、新作のなかでは、カラオケのように再生された音にあわせて演奏をするのではなく、コンピューターテクノロジーを駆使することで音響的に複雑に加工されたエレクトロニクス（電子音響）をひとつの楽器のように扱っており、生演奏中に同時進行に再生させていきます。

演奏家、作曲家によるコラボレーションで生み出される新たな音響空間体験をご堪能下さい。

ニンフェアール

ニンフェアール：2004年設立。ニンフェとは、フランス語で睡蓮（すいれん）の意味で、ギリシア神話の乙女ニンフともかけてあり、またこのニンフという単語はさなぎという意味もあります。アールはフランス語で、アートを意味し、私達はこの団体名のもとに、美しく新鮮で、これからの可能性を秘めた芸術作品を皆様にご紹介したいと願っております。これらのニンフェアール公演は、愛知県内外で好評を博し、これまでに朝日新聞、モストリークラシックなどの記事にとりあげられる他、発表された作曲メンバーの作品が、国内外（東京、ドイツ、デンマーク、アメリカ）で再演されるなど、一回の公演にとどまらない広がりを見せています。
nymphheart@yahoo.co.jp

【ニンフェアール過去の公演実績】

- ♪ ニンフェアール第1回公演：「古楽器の現在」名古屋市港文化小劇場 2005年5月21日 名古屋市文化振興事業団企画公演、国際芸術フェスティバル参加公演
出演：ガース・ノックス（ヴィオラ・ダモレ、ヴィオラ）、鈴木俊哉（リコーダー）
- ♪ ニンフェアール第2回公演：「林、森、虹、息-声と弦による贈り物」名古屋市港文化小劇場 2006年5月13日 名古屋市文化振興事業団芸術公演
出演：天羽明恵（ソプラノ）、鈴木大介（ギター）、後藤龍紳（ヴァイオリン）
- ♪ ニンフェアール第3回公演：「音とテクノロジーの対話」愛知県芸術文化センター 2007年9月26日 愛知県芸術文化センターとの共催、「AACサウンドパフォーマンス道場」関連企画
出演：八木美知依（箏）、エリオット・ガッテンニョ（サクソフォン）、カール・ストーン（ラップトップ・ミュージック）ほか
- ♪ ニンフェアール第4回公演：「音の身振り・動きの響き」名古屋市千種文化小劇場 2008年5月30日 名古屋市芸術文化財団活動助成事業
出演：多井智紀（チェロ）、太田真紀（ソプラノ）、朝川万里（ピアノ）、神田佳子（タップ）ほか
- ♪ ニンフェアール第5回公演：「息の領域」名古屋市千種文化小劇場 2009年6月5日 名古屋市芸術文化財団活動助成事業
出演：カミア・ホイテング（フルート）、森川栄子（ソプラノ）、榎沢順（映像インスタレーション）ほか
- ♪ ニンフェアール第6回公演：「ACTIONS」名古屋市港文化小劇場 2010年5月29日 名古屋市文化振興事業団芸術公演
出演：加藤訓子（打楽器）、ネイト・ペーゲル（ビデオ）、吉川敦（ライブ映像）ほか
- ♪ ニンフェアール第7回公演：「笙とピアノ・映像の融合」ソノリウム（東京） 2011年1月30日 ソノリウム「映像と音楽」共催シリーズ
出演：朝川万里（ピアノ）、中村華子（笙）ほか
- ♪ ニンフェアール第8回公演：「七夕に響」宗次ホール 2012年7月7日 宗次ホールとの共催
出演：笹本武志（龍笛）、中村仁美（箏）、中村華子（笙）ほか

1. 板倉ひろみ：「人類の泉」ソプラノの為の（2013）[世界初演]

この作品では「詩を伝える」ということに主眼を置いて作りました。これは歌を書く上で当然のことなのですが、過去の自分の作品を振り返ってみると、私個人の解釈や音楽的な理由により、ある言葉やフレーズを繰り返したりスキヤットを挿入するなど、詩の元の姿を変えることが度々ありました。音楽の流れのため言葉に融通を利かせてもらった、音楽>言葉だったとも言えます。そこで今回はもっと詩に忠実に、音楽<言葉で作ってみたいと思いました。詩の形はそのままだけに、詩人の生み出したリズムを大切に。日本語の抑揚を生かす。詠むように歌い、歌うように詠む。しかし朗読ではなく音楽作品として・・・。一語一語がよく聴こえ、そしてその言葉の奥にある作者の想いが届けば嬉しいです。詩は高村光太郎(1883-1956)の詩集「智恵子抄」の中から「人類の泉」を使用しました。妻・智恵子との結婚以前に書かれた作品です。（* 使用されている詩は、プログラム裏面に掲載。）（板倉ひろみ）

2. アリベルト・ライマン：「2つのヴォカリーズ」コロラトゥーラソプラノの為の（2006）[日本初演]

このヴォカリーズ集は、2006年の第55回ミュンヘン国際音楽コンクールの依頼により声楽部門セミファイナルにおける課題曲として作曲されたものである。コロラトゥーラソプラノ、ソプラノ、メゾソプラノ、テノール、バリトン、バスの各声種用に2曲ずつ作曲されており、基本的に「ア」の母音で歌われるが、場合によっては時折「エ」「オ」等といった違う母音を用いることも許される。テンポは大まかに指示されているが、呼気の都合により伸び縮みすることも、音楽的な流れを妨げない範囲で許される。各声種の1曲目においては、テーマとしての素材は同一のものを用い、それぞれの声域やキャラクターに合わせて、音高や音価、リズムや強弱を変化させてある。2曲目は、それぞれの声種で全く違う、声種ごとの特徴を表した作品として作曲されているが、一番最後のフレーズにおいて全声種が同じまたは非常に類似した音の流れを持つ終止をする。全ての声種において、1曲目の冒頭はgis音であり、2曲目の終止はg音である。全曲を演奏する場合、また部分的に抜粋して演奏する場合、声種の順番は問わない。

(Schott社から出版の楽譜に掲載の、作曲者による前書きを元に翻訳及び構成：森川栄子)

3. ウェイン・シーゲル：「ジャックダウ」バスクラリネットとエレクトロニクスの為の（1995/2000）

現代音楽のスペシャリストでバスクラリネット奏者のハリー・スパルナイにより委嘱され、デンマーク芸術文化振興基金により援助され作曲された。ジャックダウとはヨーロッパに生息する小さいが不敵で賢いカラスである。バスクラリネットのサンプルや、ペットとして飼っていたジャックダウの鳴き声を録音したものをフェーズヴォコーダーを使用し10倍の長さにコンピュータ加工したものなどを作品に使用している。

ウェイン シーゲル (1953-)

アメリカ ロサンゼルスに生まれ、彼の初期キャリアにおける重要な影響を民俗音楽やアフロアメリカン ブルース、アヴァンギャルドロックなどから受ける。作曲と哲学をサンタバーバラ大学で専攻したのち、1977年デンマークに留学し、その後定住する。室内楽、オーケストラ、電子音楽、サイエンスフィクション オペラなど多くのジャンルで作品が創作されている。（青山映道）

4. 伊藤美由紀：「Cantos Nuevos」ソプラノとエレクトロニクスの為の（2013）[世界初演]

今回で、ソプラノとエレクトロニクスによる組み合わせの作品は4曲目となります。それらの作品のなかでは、日本語、音素、英語を使い、各々の言語の特性を考慮し作曲し、コンピューターで音をライブ加工した電子音響とともに、新たな音色への挑戦に取り組んできました。この作品では、フェデリコ・ガルシア・ロルカのスペイン語の詩『新しい歌』を使用しています。スペイン語の言語のリズムなどの特性をいかすとともに、あらかじめ録音した声による旋律素材をもとにコンピューターで複雑にプロセスされたエレクトロニクスは、実際に演奏してもらう声のパートの変容から作成された音響素材となっています。エレクトロニクスの部分は、森川栄子さんの声と、フェルナンド・ヴィジャヴィセンシオさんに詩を朗読してもらった声の録音素材をもとに制作されています。全てが声から生まれ、微妙に変化する複雑な声の音響が、実際に歌われる声と、電子音響との間で呼応しながら、新しい歌を紡ぎだしていきます。（伊藤美由紀）

『新しい歌』詩：フェデリコ・ロルカ

午後が言う、「影がほしい」と。
月が言う、「星がほしい」と。
澄み切った泉は、唇を求め、
風がため息をつく。

光り輝き、静寂な歌は、
思考で満ちあふれ、
哀しみや苦しみや夢には、
汚されず。

私は、匂い、笑い、
そして、新しい歌がほしい。
月でもなく、アイリスの花でもなく、
死に絶えた愛でもなく。

抒情的な肉体のない歌は、
静けさで笑いを満たす。
(めくらの鳩の群れは、謎に放たれた。)

朝の歌は、未来からの静かな
水面をゆさぶり、
願いをさざ波とぬかるみで満たす。

物事の核心に迫り、
風の魂に訴える歌、
最後には、永久なる心の喜びにやすらう歌。
(日本語訳：伊藤美由紀)

第2部＝

5. ロドリゴ・シーガル：「月の生命」（2006）エレクトロアコースティックとビデオの為の〔日本初演〕

現実空間と仮想空間の中で、作品全体を通して、音が同時に明確に定義されている。音源としてのフルートの可能性は、無限であり、作品では、バスフルートとダブル・バスフルートを使用している。テクノロジーと一緒に使用することで、私達の感覚を超越するようなトリップを感じさせることが可能である。作品を通して、この感覚が共有されることを願っている。フルート音素材の協力をしていただいたアレハンドロ・エスクエル氏に感謝します。この作品は、アレハンドロ・ラバンデロス氏からの委嘱作品であり、チリ・カトリック大学芸術学部からの助成で作曲された。

(ロドリゴ・シーガル)

ロドリゴ・シーガル (1971-

メキシコ生まれ。ロンドンのシティ大学にて作曲と電子音楽の博士号を取得後にメキシコに戻り現在はメキシコシティの西北に位置する世界遺産都市モレリアの大学で電子音響学課の主任として積極的に後進の指導に当たるとともに、音楽祭の主催、また活発な作品の発表を行なっている。また、カナダのバンフ・アーツ・センターやイギリスのシドニー・ベリー財団その他から多数の賞を獲得している。

6. アリベルト・ライマン：「メルズィーネへの追作」（1971/87）無伴奏ソプラノの為の

I. 「あなたが私の全てを奪い去って。。。」

II. 「五千度目の愛の夜にも。。。」

1936年生まれのドイツの作曲家ライマンによる2作目のオペラ「メルズィーネ」（初演1971）のために、原作のイヴァン・ゴッタルドによる戯曲中より抽出したもののオペラ台本には採用しなかった、メルズィーネのアリアのテキストのうちの2編に作曲されたもの。第1曲は「メルズィーネ」初演の際のタイトルロールを歌ったキャスリン・ゲイヤーがシュヴェツィンゲン音楽祭に於いて1971年5月5日に、第2曲は1995年5月19日に森川がマンハイムにて、それぞれ世界初演を行っている。
(森川栄子)

I.

あなたが私からすべてを奪い去って
肉から皮膚を 肋から肉を 眼から眼窩を 頭から眼を
そしてただあなたの名をささやく
ひと吹き息でしかなくなって 初めてわかるの
どんなに自分があなたのものであるかを

II.

愛しいはじめて五千度目の夜を迎えても
まだいつも初めての時のようにびくびくしてしまう
釣鐘草を濡れたまま摘んで 白い手袋に青い染みをつけ
あなたにとバッグに入れて持ってきた雲雀を 不器用に窒息させて
幸せの哀しみを隠すのには どうやって微笑みかけたらいいのかわからない
あなたを抱きしめようとして 太陽をひっくり返す

(日本語訳：森川栄子)

7. 田中範康：「Sparkling in the Space IV - 祈りの時 -」（2013）〔世界初演〕

ソプラノ、バスクラリネットとエレクトロニクスの為の

私にとってエレクトロニクスを使った作品は、これが4曲目になる。わずか数年前は、エレクトロニクスを自作品の中で使う事に対して懐疑的であったことは否めない。私の学生当時はまだアナログ時代であり、エレクトロニクス作品制作については技術的な制約が多く、授業の中で実験的な断片作品を数曲書いたに過ぎなかった。しかし3年前に発表したSparkling in the Space Iで、テクノロジーの発達により、エレクトロニクスが、音楽表現としてのToolとして申し分ないことが理解できたことに加え、アコースティックでは表現できない独特の音響空間を作ることに大きな楽しみを感じたのである。今回の作品はSparkling in the Spaceシリーズの第4曲目になるが、今回、ソプラノとバスクラの名手との出会いで、お二人が奏でる音楽のすばらしさと、エレクトロニクスをどう絡めていくが最大の課題であった。冒頭に提示され音列群による断片的なフレーズが様々に変容を繰り返しながら全曲を構成しているが、中間部にモードによる素朴な宗教的旋律を重ねて見た。最後に、今回演奏をしていただたく森川さん、青山さん、並びにレコーディング素材として協力していただいた多治見少年少女合唱団の方達に心より謝意を表します。
(田中範康)



森川 栄子(ソプラノ) Eiko MORIKAWA, soprano

北海道教育大学札幌分校特音課程および東京藝術大学声楽科卒業、同大学院修了。DAAD奨学金を得て93年よりベルリン芸術大学に留学し、アリベルト・ライマンに現代声楽曲を、エルンスト・ゲロルト・シュラムに声楽を学ぶ。94年ダルムシュタット現代音楽講習にてクラークニヒシュタイン音楽賞。96年ガウデアムス現代音楽コンクール総合第2位、第65回日本音楽コンクール第1位および増沢賞。ミュンヘン・ビエンナーレ(細川俊夫『リアの物語』ほか)、ザルツブルク音楽祭(ラッヘンマン『マッチ売りの少女』)、ベルリン・コーミッシェオーバー(リゲティ『ル・グラン・マカーブル』)出演など、数多くの新作世界初演を含む現代声楽作品・オペラを中心に主に欧州にて活躍。国内では2005年に新国立劇場委嘱新作(久保摩耶子『おさん』)、2007年東京交響楽団定期演奏会(ヘンツェ『ルババ』)、2009年東京室内歌劇場公演(リゲティ『ル・グラン・マカーブル』、ヘンデミット『往きと復り』)、2010年東京室内歌劇場公演(青島広志『火の鳥』)などに出演。2008年秋に帰国し、愛知県立芸術大学准教授、お茶の水女子大学非常勤講師として教鞭をとると同時に活発な演奏活動を展開している。2011年にはベルリンよりアクセル・パウニを共演ピアニストとして招聘し、東京・オペラシティおよび名古屋・電気文化会館にてリサイタルを開催した。



青山 映道(クラリネット) Terumichi AOYAMA, clarinet

1999年浜松イーストマン音楽学校夏季セミナーにおいてハワード・ハンソン奨学金を獲得し、2000年よりアメリカ・イーストマン音楽学校大学院に留学。2003年演奏家資格を取得し修了。2006年ベルギー・フランダース政府奨学生としてアントワープ王立音楽院研究科に留学。2008年修了し帰国後、クラリネット四重奏“アンサンブル・ソノリテ”のバスクラリネット奏者としての活動、オーケストラへの客演、2010年10月日本演奏連盟主催リサイタルを大阪いずみホールにて開催する他、2010年ベルリン映画祭小編部門招待作品、カンヌ映画祭監督週間招待作品、また今春より公開された映画『舟を編む』等の音楽制作にミュージック・ディレクターとして参加するなど多方面に活動の場を広げている。2012年4月より名古屋芸術大学バスクラリネット科非常勤講師。



伊藤 美由紀(作曲/コンピューター) Miyuki ITO, composer/computer

愛知県立芸術大学、マンハッタン音楽院修士課程修了後、コロンビア大学(ニューヨーク)で作曲をトリスタン・ミュライユに師事、博士号を取得。文化庁芸術家在外研修員としてIRCAM(フランス国立音響音楽研究所)にて研鑽を積む。東京オペラシティ、ミュージック・フロム・ジャパン(ニューヨーク)、アタック・シアター(ピッツバーグ)、オニックス・アンサンブル(メキシコ)、愛知芸術文化センターなどによる作品委嘱ほか、カーネギーホール(ニューヨーク)、レゾナンス・フェスティバル(パリ)、ISCM世界音楽の日々(香港)、国際コンピューター音楽会議(マイアミ)、SMC(ギリシャ、スペイン)、Re:New(デンマーク)をはじめ、世界各国のコンクール、音楽祭に入賞、入選し、国内外で作品の発表を続けている。また、ニッフェール、JUMPの代表として自主企画公演を定期的に展開。『時の砂』がALCD80からリリース。スヴィーニ・ゼルボーニ出版社(ミラノ)からフランコ・エヴァンジェリステイ国際作曲コンクール優勝作品『古代の息吹をしのぶ。。。』の楽譜出版。執筆活動として、『音楽現代』に『トリスタン・ミュライユの音楽的思考』と題して連載、メキシコのコンピューター音楽雑誌『Ideas Sonicas』に拙作の分析論文(英語)が掲載。現在、名古屋芸術大学、千葉商科大学、愛知県立大学、愛知県立芸術大学、各非常勤講師。 www.miyuki-ito.com



板倉 ひろみ(作曲) Hiromi ITAKURA, composer

愛知県碧南市生まれ。愛知県立芸術大学音楽学部作曲科を卒業後に渡仏し、パリ・エコール・ノルマル音楽院、ストラスブルグ国立地方音楽院にてディプロム取得。SACEM、野村国際文化財団より奨学金授与。コルテミア市国際音楽コンクール作曲部門3位、JFC作曲賞コンクール等入選。帰国後は、後進の指導の傍らフリーの作曲家・編曲家として活動中。『若き音楽家による企画コンサート2010』の企画・出演や、『金子みすゞコンサート』(2012)、まちおこしダンス『愛・かきつばた姫』(2013)の作曲に携わっている。現在、愛知県立芸術大学、光ヶ丘女子高等学校、各非常勤講師。



田中 範康(作曲/コンピューター) Noriyasu TANAKA, composer/computer

東京生まれ。国立音楽大学作曲科並びに器楽科卒業。作品は、NHK-FM、アメリカ、韓国などの放送メディアや、国内はもとより、ドイツ(ベルリン、ボン、ヴァッサーブルク)、オーストリア(ウィーン、ザルツブルク)、フランス(パリ)、北歐(コペンハーゲン、オスロ)、ベルギー(アントワープ、ルーベン)、韓国(ソウル、テグ、マサン)の音楽祭などで、広く紹介されている。オーストリアのVMM(Vienna Modern Masters)レーベルから室内楽作品集(Noriyasu Tanaka Chamber Music)として、1994年にVol.I(VMM2011)、2002年にVol.II(VMM2036)の2枚のアルバムがそれぞれリリースされている。また2001年には韓国作曲家達と共に、詩人=李承淳氏とのコラボレーションによる、韓国伝統楽器によるアンサンブル作品『暗闇』がCDリリース(韓国)されている。2011年には、2002年より2009年までに発表された作品の中から、代表的な室内楽作品を収録したアルバム『田中範康作品集』(ALCD87)が、ALMレコードよりCDリリースされた。さらに2014年上半期に近年の作品を納めた新しいCDがリリースされる。現在、名古屋芸術大学音楽学部、同大学院音楽研究科教授。日本現代音楽協会会員、日本作曲家協議会会員、日音楽家協会会員。

人類の泉（詩：高村光太郎）

世界がわかかわかしい緑になって
青い雨がまた降って来ます
この雨の音が
むらがり起る生物のいのちのあらはれとなつて
いつも私を堪（たま）らなくおびやかすのです
そして私のいきり立つ魂は
私を乗り越え私を脱（のが）れて
づんづんと私を作つてゆくのです
いま死んで　いま生まれるのです
二時が三時になり
青葉のさきから又も若葉の萌（も）え出すやうに
今日もこの魂の加速度を
自分ながら胸一ぱいに感じてみました
そして極度の静寂をたもつて
ぢつと坐つてみました
自然と涙が流れ
抱きしめる様にあなたを思ひつめてみました
あなたは本当に私の半身です
あなたが一番たしかに私の信を握り
あなたこそ私の肉身の痛烈を奥底から分つのです
私にはあなたがある
あなたがある
私はかなり残酷（ざんこく）に人間の孤独を味つて来たのです
おそろしい自棄（やけ）の境にまで飛び込んだのをあなたは知つて居ます
私の生（いのち）を根から見てくれるのは
私を全部に解してくれるのは
ただあなたです
私は自分のゆく道の開路者（ピオニエエ）です
私の正しさは草木の正しさです
ああ　あなたは其（それ）を生きた眼で見てくれるのです
もとよりあなたはあなたのいのちを持つてゐます
あなたは海水の流動する力を持つてゐます
あなたが私にある事は
微笑が私にある事です
あなたによつて私の生（いのち）は複雑になり　豊富になります
そして孤独を知りつつ　孤独を感じないのです
私は今生きてゐる社会で
もう萬人の通る通路から数歩自分の路に踏み込みました
もう共に手を取る友達はありません
ただ互に或る部分を了解し合ふ友達があるのみです
私は此の孤独を悲しまなくなりました
此（これ）は自然であり　又必然であるのですから
そしてこの孤独に満足さへしようとするのです
けれども
私にあなたが無いとしたら
ああ　それは想像も出来ません
想像するのも愚かです
私にはあなたがある
あなたがある

そしてあなたの内には大きな愛の世界があります
私は人から離れて孤独になりながら
あなたを通じて再び人類の生きた氣息（きそく）に接します
ヒユウマニテイの中に活躍します
すべてから脱却して
ただあなたに向ふのです
深いとほい人類の泉に肌をひたすのです
あなたは私の為めに生まれたのだ
私にはあなたがある
あなたがある　あなたがある